

# ウクライナ避難者支援

## のための情報共有会議

### — 第27回議事メモ

日時：2025年2月28日（金）18:30～20:30

場所：オンラインzoom

参加者：33名

\* 団体、個人名については敬称略にて掲載しております。

# 開催挨拶

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク/  
認定NPO法人レスキューストックヤード( RSY) 代表理事 栗田暢之

3年目の2.24を迎えての開催となった。世界情勢に憤りがある、戦争の終結が議論されているところだが、取引、効率などが優先され、誰のためかが欠落しているのではないかと感じる。避難者がどう受け止めているのか、避難当初とは違う不安や怒りも生まれてしまっているのではないかと考える。市民にできることは少ないが、できることをさせて頂くという趣旨でネットワークで活動している。みなさんと忌憚ない意見を交わしていきたい。今日は、避難者当事者の生の声を聞かせていただく機会がありみなさんとともに学びたい。

# 自治体、支援団体からの報告と質疑

<名古屋市 国際交流課 石川さん>

- ・侵攻が起きた当初より、ウクライナ避難民支援に携わっており、振り返って報告したい。最新の避難者人数は 85人(前月比4人増)。侵攻が始まってすぐは、観光ビザで11人が入国、翌月20人、さらに30人に増加という状況であった。
- ・寄付金を財源として事業を実施しているのが特徴。NPOとの官民連携で事業が実施できている。
- ・3年前は1ヶ月で1000万円の寄付が寄せられた。しかし、昨年度は寄付募集を頑張っても 600万円、今年募集しているクラウドファンディングは目標100万円で60万円しか集まっていない。さらにこの事業の取組を広めていく必要を感じている。
- ・戦争が続いていて、避難民の来日も続いているが、日本国内からの他都市から名古屋へ転入という方も増えている。それに伴い、課題も多様化している。引き続き、皆さんと連携しながら課題に対応していきたい。

<愛知県 多文化共生推進室 林さん>

- ・2022年2月のウクライナ侵攻より、県内でのべ 181名のウクライナ避難民を受け入れている。県営住宅の無償提供、多文化共生センターでの相談対応などを行っている。
- ・85世帯121名(2025年2月1日時点)
- ・愛知県が実施している支援事業(2022年5月～現在)
  - ①生活一時金の支給:1世帯 20万円(3人目以降1人につき 10万円加算)
  - ②日本語学習の支援:オンライン日本語教室の開催、タブレットの貸与、プリペイド SIMカードの支給
  - ③寄附物品の受付・配送:地元企業等から寄せられた日用品等を避難民に配送。
  - ④寄附金の募集:寄附金は、生活一時金やプリペイド SIMカードの支給に活用。

# あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク報告

あいち・なごやウクライナ避難者ネットワーク コアメンバー 向井忍

<ネットワーク作成「報告と提言」冊子について>

・3月に発行予定の報告書について紹介。我々ネットワークは、市民がこの状況をなんとかしたいと開始した。愛知だけではなく、他地域でも同様の経験があると思う、記録し冊子としてまとめることでさらに力を強めたい。

・タイトルは「報告と提言(仮)」、私達の経験した事実を根拠として国や行政に提言していきたいが、一方的な提言ということではなく、これまでの成果、課題、努力、ここから先はもっとたくさんの人との協力が必要ということを明らかにして議論を深めたいと作成している。ネットワークは名古屋市との官民連携、周辺市町村との連携で進めてきた。協定を結んだわけではなく、連携をしてきたという事実は本当に貴重。官民ともに立場を活かしてできることを最大限やってきたというのが共通している。一つ一つ記録して今後参考にしていけたらよい。

・報告書で記載しているテーマは、財源や支援物資の確保について、相談が寄せられた内容、身元保証、住まい、生活圏のつながり、仕事、言葉、学校、若い世代のキャリア、進路、健康や医療、在留資格や国の施策、ウクライナ人コミュニティや自助組織等。

・この経験を他の国籍の方々への支援にも広げていきたい、完成後、新年度に改めてみなさんと活用について考えたい。

# あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク活動報告

(事務局:レスキューストックヤード( RSY)加藤)

- ・名古屋市からの転出入が続いている。転出者が使用しなくなる家財の運搬のためにボランティアの方にご協力いただいている。3年目にあたる日以降に、少し支援登録があった。新聞を読んで登録して下さった方もある。ただ、ニュースに大きく取り上げられていたが、実際支援に繋がることは少なかった印象だ。
- ・新しく子どもが学校に通ったり、日本語学校に通うようになったりした事例がある。避難者がそれぞれ地域で取り組もうという姿が見られる。名古屋市の市営住宅無償提供の更新手続きに戸惑った方もあり、手伝いをした。
- ・避難者全体に言えるが、アメリカによる停戦交渉、報道されている情勢の変化に伴って、不安の声を聞くことが多かったように思う。今後の見通し、支援金の終了に伴って、どのような道を選ぶか考えていけないと思っている方が多いように思うので、寄り添っていきたい。

# 名東高校MCU (Meito Connect Ukraine)の活動について

・名古屋市立名東高校 2年生の3名で活動している。

・MCUのInstagramで行ったアンケート、ウクライナ侵攻の報道を目にしたのはいつか？ →半数以上が半年以上最近目にしていないと回答した。侵攻開始当初は頻繁に報道されていたものの、人々の関心が低下している。ウクライナで起きている現状を多くの方に知ってほしい。この状況を風化させたくないという思いから、MCUとして活動を始めた。「現状を多くの方に伝えること」「名古屋市の避難民を支援する」「現地へ支援する」の3点を意識して活動している。

・名古屋市で開催されているウクライナ避難民の「つどいの場」に参加し、避難民にインタビューをした。また、名古屋市職員のターニャさんにインタビューをした。現状を知り、新たな視点を伺い、自分たちの想いを具現化することができた。

・アクション①街頭募金。55,000円近くの募金が集まり、NPO法人チェルノブイリ救援中部に寄付、全額ウクライナ支援に活用して頂いた。

・アクション②イベント「テーブルでつなぐウクライナ」を開催。ウクライナ料理レストラン「ジート」にて交流会を開催。ウクライナと日本をつなぐきっかけを作りたい、25名を超える方に参加していただくことができた。

・アクション③イベント「募金と絵画でつなぐウクライナ」を名東高校にて開催。図書館にウクライナの子どもたちが描いた絵画を展示、募金も行った。

# 名東高校MCU (Meito Connect Ukraine)の活動について

<成果> ①支援活動を広め、現地の声を発信することができた(メディア掲載、インタビュー、絵画展示)

②支援ネットワークと地域交流(地域の人がウクライナ支援に関わるきっかけを作ることができた)

<課題> ①支援の継続(持続的に成果を実現させる必要がある)

②支援の幅を広げる(語学、職業支援など必要とされていることが多くある)

③より多くの人を巻き込む(高校だけでなく、より広い地域の人を巻き込みたい)

★大切なのは<自分たちにできる支援とは何か>を日常的に考えること

→校内でのPSC(ピースサポートクラブ)を提案したい:戦争・紛争で助けが必要な人を支援するクラブ活動。学校の中から「世界のためにできることがある」また、クラブ活動にすることで学校全体で意識を高めることにもつながる。

「戦争を風化させない」「ウクライナで起きている戦争を忘れず、自分たちにできる形に関わり続けること」「支援は特別なことではなく、日常の中でできること」この言葉を皆さんに覚えておいて欲しい。

進行より:若い世代が動機力をつけていることが頼もしい。家庭の中で話をすることはあるか?

→(回答)ある。(進行)話をする事で家族、その周りの人に広がっていくきっかけになると思う。

# JUCA(NPO法人日本ウクライナ文化協会)

理事長 川口プリスリュドミラ 副理事長 榊原アレクセイツァナターリア

- ・2/24にデモを行い130人位が集まり、うち避難民は30人位集まった。
- ・ジートは3月23日でウインクあいちでの営業を終えて、4月から栄のマルエイガレリア3階に移転する。
- ・ヨガサロン、毎月10日のヒサヤマーケットも引き続き実施、新しい作品も増えているので楽しみにしてほしい。
- ・つどいの場も引き続き実施。日本語教室、ウクライナ語でテーマに応じて講演を行っている。
- ・2024年は就労のことで苦勞する避難者が多かった。ジートで働く人が増えたが、企業の面接を受けても落ちる人が多い。一方、2月には、運送会社に7人も就職ができ協力を感謝している。就労の支援が少なくなってきたので、雇用していただけるのは本当にありがたい。
- ・2/22に東京で行われたシンポジウムに参加。東京でも名古屋と同じような問題があり、一番苦勞しているのは若者の専門学校や大学、また、就労について。避難から3年を超え、支援金も終わるので、給料が足りるか心配な方は多い。名古屋からの経験も伝えたうえで、東京のYMCA同盟も一人一人の支援を行っているので、コミュニケーションをとりながら情報交換が必要と思っている。
- ・ウクライナ国の存続に対して戦況が非常に大事な時期。民主的な価値観が支持されることを願っている。皆さんにこれからもご協力をお願いしたい。

# 避難当事者からのメッセージ紹介

## <昨年メッセージを頂いた避難者の現状について(①～⑤の方々)>

### ①ウクライナ東部出身 親子(娘、母):

就労先も引き続き同じ企業で頑張っているが、習得した日本語の実践の場がないことを嘆いている。母は、ジートと工場で勤務し、翻訳機やジェスチャーで意思疎通を頑張っている。最初の頃は一人で外出は難しかったが、今では、公共交通機関をうまく使い、名古屋中どこでも出かけられるようになった。

### ②ウクライナ中部出身 男性:

大学の留学生枠で日本語を勉強していたが、試験を受け学部に入学することができた。弓道部での活動も充実している。飲食店でのアルバイトも、最初は厨房だったが、今ではホールの仕事もできるようになった。日本の琴の音色に惹かれて来日したが、琴の先生に習う機会を得て、今では上達している。

### ③ウクライナ西部出身 男性:ジートで勤務。将来はパン職人やパティシエを目指し頑張っている。

### ④ウクライナ東部出身 家族:

昨年日本を離れ、現在はスペイン在住。娘の学校教育や夫の専門技術を活かす仕事が日本では見つからず、出国を決めた。日本を離れた後、親と会うためウクライナに一時滞在したものの、殺伐とした雰囲気を感じた。スペインの一時滞在施設では食事を提供され、次の避難先が見つかるまで半年滞在することができる。しかし、多様な難民がいることもあり、食事の時間が決まっていたり(自炊は禁止)、門限があったりなど、ある程度の規則がある。避難者支援プログラムは、3段階に別れており、①言語学習 →②アパートへ移動(生活費が支給される)もしくはホテル滞在(食事提供)、その間に専門学校に通って資格を取ることができる。履歴書作成サポートもある。 →③さらに半年後には自分たちで家を見つける必要がある(当面や家賃や給付金支援もある)。自分たちは第①段階で言語学習中。

# 避難当事者からのメッセージ紹介

スペイン語で少し会話もできるようになった。子どもたちはホテル向かいの学校に通学。授業は英語の説明もあり、外国人は別室で補習を受けることもできる。夫は建設現場で仕事を始めたがロシア語話者も多く働いており、お金を貯めていずれは会社を持つことも可能。自分もいずれは仕事をしたいが、スペインでは子どもに関する規則が厳しく、ある程度大きくなるまで子どもを一人で家に残すことは認められておらず、学校への送迎も必要のため、働く時間に制限がある。子どもたちはコロナ流行で周囲との接触が制限された上に、その後戦争が始まり外国での避難生活を送ることになり、長期にわたって精神的に辛い状況が続いている。スペインでは公園が身近にたくさんあり、自然に癒やされている。今は、次の段階の避難先が決まるのを心待ちにしている。

## ⑤ウクライナ東部出身 女性:

日本での避難生活の後、アメリカに移住。名古屋で多くの支援をして頂き感謝している。日本では個々の技能に合った就職が困難という問題がある。例えば、壁の塗装の技術に使う日本語は習得しているが就職が困難というケースもあった。雇用主が外国人を雇うことに躊躇する。自動車修理の仕事も同じだ。優秀な避難民が専門に応じた就職ができれば避難者、日本社会双方にメリットがあるのではないか。また、他の避難民や現地の人々とコミュニケーションを取れるような支援も大切。戦闘地域から避難してきた人にとって孤独は特に辛い。日本には2年間暮らし、第二の故郷となったが、娘と婿が亡くなり、孫たちが孤児になったため、アメリカに避難することを決意した。避難民として日本で3人の子どもを養うことは難しい。子どもたちを育てる生活費や教育費が高いためだ。

アメリカでは、最大2年間の人道的措置で滞在することができ、その間仕事もできる。また正式な難民申請も可能だが手続きに長い時間がかかるため、多くの避難民はスポンサー制度を利用し、アメリカ人の家庭に一時的に住んでいる。政府から食料や生活必需品のための金銭的支援を受けられるが、家賃補助はほぼない。州ごとに異なる医療保険制度がある。州によっては、低所得者向けに医療保険の補助制度がある。また、無料の英語講座、職業訓練プログラムがある州も。移民が多いため、就労許可証の取得に最大3ヶ月以上かかる場合がある。許可取得後は英語力があれば公務員や警察官としても勤務可能。無料の法律相談や就労支援も提供されている。避難民向けの博物館や公園の割引があり、1ドル程度で入場可能な所もある。ウクライナの運転免許で3ヶ月運転可能、その後、筆記と運転試験に合格すればその日のうちにアメリカの免許で運転可能。日本を離れたのは本当に厳しい決断だった、日本とその人々を心から愛している。将来、観光で日本を再度訪れることを楽しみにしている。

# 避難当事者からのメッセージ紹介

<今年新たにメッセージを寄せて頂いた方(⑥～⑧の方々)>

⑥ウクライナ中部出身 40代女性

私と息子2人は2023年8月に避難してきました。日本を選んだのは友人が日本に住んでいたからです。日本での2学期が始まり、下の息子を入学させるため小学校へ連れて行きました。その時出会った保護者の1人がたまたま介護施設のスタッフを探していて、私を紹介してくれました。面接後すぐに採用となり私はそこで働くことになりました。仕事をする上で特に困ったことはないです。私にできない仕事は他のスタッフの方がサポートしてくれます。例えば、利用者さんの洗濯物を仕分けをする際に漢字で名前が書いてあって私には読めないのも、それ以外の仕事を任せられます。他に分からないことがあれば、翻訳機を使って問題なく仕事をこなせました。逆に利用者さんが手伝ってくれたりもしました。今は月から金まで1日4時間働いていますが、4月からは少し増やすつもりです。息子は、1年生として学校に通うことになりましたが、身元保証人の子どもと同じクラスにしてもらえたこともあって、他のクラスメートともすぐ仲良くなりました。学校で習ったことを当時全く日本語が分からなかった私に教えてくれたりもしました。先生方はとてもいい方で、息子は学校が大好きです。咳や熱があったとしても「学校に行かせてくれ」とせがむほどです。

上の息子は、ウクライナの学校を6月に卒業してから来日し、こちらでは日本語学校に行くことを決めました。学校には、いろいろな年齢、国籍の学生がいます。最初はほとんど翻訳機を使いながらでしたが日本語でコミュニケーションを取り、とても楽しく通っています。通学時間は1時間15-30分ほどで、決して近くはないですが2年間通い、4月からも引き続きもう1年通うことになりました。

学校からの紹介でパン工場でのアルバイトもしています。

日本に対しては最初からいい印象を持っていましたが、住んでみてさらによくなりました。人々がとても親切ですし、すばらしい国です。唯一私にとっての問題点は、やはり言語です。短期のコースで勉強はしましたが、なかなか上達しません。もちろん、言葉が分からなくても私たちは行政の手続きや病院などもほとんど自分たちでやっています。翻訳機を使えば何とかできます。それでも早く日本語をマスターしてもっとたくさんの方々と交流したいのです！そのためにも4月からは定住支援プログラムを受講する予定です。

# 避難当事者からのメッセージ紹介

## ⑦ウクライナ中部出身 10代男性:

戦争が始まり、様々なひどい情景を目の当たりにし、全てを失くしてしまい、私の将来を心配した両親は私に避難することを勧めました。その時私は17歳でした、まずはポーランドに3ヶ月滞在しました。そこで日本での学校や仕事を探していました。(なぜ日本を選んだのかは、自分でもはっきりしませんが、文化や経済の面でだと思います。)そして何とか居住許可が切れる最後の日にビザを取得することができました。それは2023年4月のことでした。日本に来てからしばらくある会社で働いていましたが、健康上の問題がきっかけで退職することになりました。そんな中JUCAメンバーに出会い、私の引っ越しに関して、また、就職できるよう手続きを手伝ってくれました。レスキューストックヤードの皆さんもいろいろとサポートをしてくださいました。

その後、名古屋で暮らしていましたが、昨年10月から対面で定住支援プログラムを受けるために東京に引っ越しました。月曜から金曜までは日中に日本語講習を受けた後、家具量販店で仕事をして、帰宅は23時頃になります。プログラムの先生の教え方は素晴らしく、職場では毎日先輩と日本語でおしゃべりしています。ですから、今では翻訳機を全く必要としません。日本の好きなのは、人々があまり他人のプライバシーに立ち入ってこないところ、特に宗教や政治についてもです。ヨーロッパではそういうセンシティブなテーマについて語り合うことが多く、それが結局対立に繋がってしまうのです。

東京はいろんな意味で肌に合わないの、春には名古屋に戻りたいと思っています。名古屋に帰ったらまずは少し休みたいです。そして日本の春は出かけるのに最適な気候なのでどこかに出かけたいです。将来は、コンピューター関係の仕事がしたいと考えています。

# 避難当事者からのメッセージ紹介

## ⑧ウクライナ東部→中部へ転居 その後来日 40代女性

私たちは2024年11月に避難してきました。私が日本を避難先に選んだ理由は日本が大好きだからです。私には永住権がありますし、言葉も話せるし、名古屋に何年も住んでいたのを知り合いもいます。文化にも親しみを感じています。ただ、子どもたちはそう簡単にこの選択をした訳ではありません。彼らはキーウが大好きですし、そこには友達もたくさんいますから。でも、2年経っても戦争が終わらないので、ようやく避難することを決めたのです。日本はウクライナとは全てが違い、まるで別の惑星に来たようです。美しく清潔で人々は親切です。私たちの今の暮らしは順調です。アパートの提供や国からの給付金もあります。息子は、中学校に通い始めました。彼は最初「日本人は閉鎖的で外国人をあまり受け入れず、自分が孤独になるのでは」と心配していましたが、実際は全く違っていました。その学校には外国人がたくさん通っていて、クラスに最低でも1人はいます。(ヨーロッパからは彼1人ですが。)生徒たちは彼を拍手と笑顔で迎え入れてくれました。彼はすぐに人気者になり、皆知っている英語の単語をどうにか思い出して彼と話そうとします。そういった環境に感謝しながら息子は日本語を勉強し、楽しく学校に通っています。その日本語の上達度は、先生が褒めて下さるほどです。バスケットボール部にも入って活動しています。娘は、来日してからこの4ヶ月間、家族以外との交流がほとんどありませんでしたが、それでも最近は看板に書かれた日本語を読めるようになったり、天気や食べ物などにも慣れてきました。食べ物に関しては息子もそうですが大好きです。今は、4月から定住支援プログラムで日本語を勉強するのを心待ちにしています。こどもたちは、落ち着いたら日本国内を旅行したいという気持ちがあるようです。たとえば沖縄や海など。私は、お金のためだけでなく、人の役に立ち、かつ自分が楽しめるような仕事や活動を見つけたいです。自分の可能性を最大限に引き出し、自分が完全に日本の住民だと思えるようになりたいです。一日の中で気持ちが暗くなる時間もありますが、今日一日生きている、それだけでいいじゃないと思っています。半年前は、日本に行きたい、戦争の爆撃の音を聞かない、あちこち避難せずにいられる生活をしたいと思っていましたし、子どもたちが元気であることも自分の願い、今はそれが実現できています。夢が叶っています。夜寝るときにふと淋しくなる日もあるけれど、公園に来てそのことを思うと、また自分を奮い立たせることができます。他の避難者も暗い気持ちで過ごしている人が多いと思いますが、例えばオンラインで気持ちを出す場を作る、精神的に暗くならないような方法を伝え合うなどの場作りをしたいと思います。名古屋在住の人であれば、公園でスポーツをするなど、避難者どうしが集まって助け合えるような場を作りたいです。

# ブレイクアウトルームでの意見交換

- ・避難者の状況紹介の際に、第三国(アメリカ、スペイン)での避難民受入情報があり、貴重な内容だった。
- ・避難者の声から、生活が楽しいという方は、人のつながりがうまくいっているので、交流会の開催など自分たちにできることを考えていきたい。
- ・避難者の声を聞いて、何かあったときに誰かが拾えるような場、いろんな立場の人が関われるようにすることが必要だと感じた。
- ・避難時の状況～来日後の生活状況がとても詳細で勉強になった。避難者が直接参加し、話の中から笑顔の裏で苦勞を乗り越えてきたことがわかり本当に貴重だった。避難者の居場所になるようなことを作りたいという希望を聞いて、単に賃金を得る仕事だけでなく夢を追うような仕事ができるように応援したい。
- ・避難民を大規模に受け入れるというのは日本社会にとって初めてのことで、日本社会がどう変わったのかきちんと見直し、報道していきたい。
- ・自治体に対してなぜいまだにウクライナを支援しているのかという(事実に基づかない)クレームのような電話があり、報道されて良い面とストレスにさらされるという悪い面について意見交換した。ニュースのうち何が正確で、何がプロパガンダなのか若い人が判断するのは大変難しい。障がい者団体でも同じような経験をしたことがある。JUCAIにはウクライナ大使から直接その点で励ましがあつた。
- ・2.24に合わせた戦況の報道だけになってきているが、一人一人の記者と避難者が関わって新しい切り口や今の課題を発信していくことが大事。
- ・避難者が在住している地域住民の方の理解や関心が増していくともっと良くなる。
- ・高校生の参加があり、避難民と協力してイベントなどをできないか検討しているという力強い声があつた。
- ・名東高校の「自分たちにできる支援を日常的に考えていくこと」という言葉がとても心に響いた。

# ウクライナ避難者支援のための寄付にご協力をお願いします

郵便振替00810-7-215694 口座名義:レスキューストックヤード

(ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込み)

ゆうちょ銀行(金融機関コード: 9900)・〇八九(ゼロハチキュウ)店(店番: 089)

当座 0215694 口座名義:レスキューストックヤード

※領収書は認定NPO法人レスキューストックヤードからの発行となります。